

南アフリカ為替週報

2022年9月1日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去2週間の動き＞

(8月18日～8月31日)

USD/ZAR: 16.6475～17.1400
ZAR/JPY: 8.00～8.26 (参照値)

過去2週間の南ア・ランド相場は、予想に反し続落が先行。その後底打ち反発する局面も見られたものの、2週間を振り返って、引き続き過去2年余りの安値圏(対ドル)と言える水準に膠着した。ランド続落先行には、17日以降広がったゴドングワナ財務相に対する性的暴行嫌疑の影響もあったはず。仮に訴訟となれば、与党アフリカ民族会議(ANC)のルールで、少なくとも容疑が晴れるまでは公職/党職から退かなければならない。労使交渉や財政改革を指揮する同財務相が、中期予算政策声明(MTBPS)発表を2ヵ月後に控えて、仮に離脱することになれば、ラマポーザ政権に対する痛手は相当に大きなものとなる。並行して、金、プラチナなど貴金属の価格が低迷したことも、資源輸出国である南アの通貨には重石になったはず。資源価格低迷には、中国景気減速懸念に加え、米連銀による積極的な追加利上げ観測=景気抑制要因の高まりも影響した。米連銀利上げ観測は同時にドル押し上げ要因でもあり、26日の米連銀パウエル議長の追加利上げに積極的と読める発言(於ジャクソンホール)などは、二重の意味でランド押し下げ要因になった。24日発表された南ア7月CPIは前年比+7.8%まで上伸したものの、市場の予想水準にとどまったこと、足元燃料価格の下落などを背景に「7月で天井を打った」との見方が広く共有されることになった。南ア国債が堅調に反応(利回りは低下)したこともあり、前後してランドも反発を見せたものの、上述、パウエル議長発言が世界的な長期金利上昇を招いた結果(ドルにとっては素直に買い要因、ランドにとっては南ア国債下落要因=売り要因と読まれた)、ランドの堅調は長続きしなかった。

＜過去2週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/23	9:30	失業率	Q2	33.9%	35.0%	34.5%
8/24	8:00	CPI(前年比)	7月	+7.8%	+7.8%	+7.4%
8/30	6:00	民間部門信用(前年比)	7月	+7.09%	+7.20%	+7.53%
	12:00	財政収支(ZAR)	7月	-129.5bn	-84.1bn	+73.8bn
8/31	12:00	貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn	+19.0bn	+24.2bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(9月1日～9月7日)

USD/ZAR: 16.900～17.300
ZAR/JPY: 8.05～8.25

向こう1週間の南ア・ランド相場は、安値圏での膠着を予想。上述の通り、南ア物価が天井を打った(天井に近い)との思惑は広く共有されつつあるが、そのことは南ア準備銀による金融引き締め終焉が近いことと同義ではない。実のところ、南ア金利先渡契約(FRA)はこの間、一貫して(政策金利への連動が強い)短期市場金利の上昇を織り込んできている。米連銀や欧州中銀の積極的な利上げ姿勢が、それぞれドル、ユーロの押し上げ要因と読まれる現状で、おそらく、これはランド押し上げ要因のはず。それでも、ランド反発を予想の中心にできないのは、ゴドングワナ財務相や、ラマポーザ大統領自身に対する汚職嫌疑が晴れるまでは、南ア政治の安定にも、南ア経済(財政)の先行きにも、南ア資産(ランド)の反発にも自信を持ってないから。ラマポーザ大統領は、自身に掛けられた汚職嫌疑のうち、外貨保有規制に係る南ア準備銀からの照会に、9月8日までに回答する必要があるとされており、同大統領を巡る汚職嫌疑の動向(訴訟にまで発展するか、否か)に関しては、この日までにある程度の見通しがつく可能性も考えられよう。6日発表される南ア第2四半期GDPは、「利上げに耐えられる景気の底堅さ」が確認できるか、否かという目線で興味深いものの、ランドの値動きに与える影響としては、2日の米8月雇用統計と米連銀金融政策動向を巡る思惑の方が振幅を出すのかもしれない。

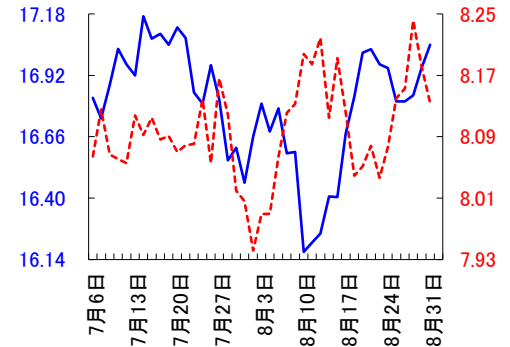
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/1		自動車販売統計(前年比)	8月		+10.1%	+30.9%
9/6	9:30	GDP(前年比)	Q2			+3.0%
9/7	6:00	総外貨準備高(USD)	8月			59.51bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

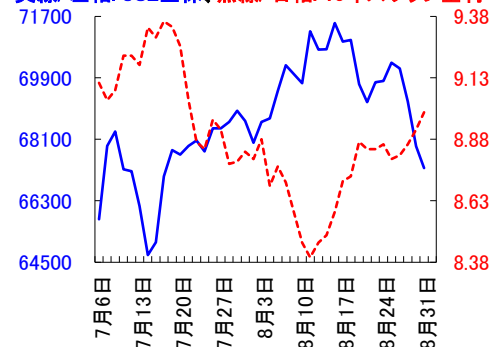
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	8月31日	8.990%
株価指数(JSE全株)	8月31日	67257.14
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	7月	+7.8%
小売売上高(前年比)	6月	-2.5%
製造業生産(前年比)	6月	-3.5%
鉱業生産(前年比)	6月	-8.0%
貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn
金価格(ロンドン17:00)	8月31日	1718.89

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。